

シャロームいしのまき

3.11を語り継ぐ「チャリティーオンライン・イベント」

今から13年前の2011（平成23）年3月11日午後2時46分。観測史上最大と言われる東日本大震災が東日本の沿岸部と北海道の太平洋岸を襲い、未曽悪の被害をもたらしました。以来、2016年（平成28年）の熊本地震、2018年（平成30年）の北海道胆振東部地震、そして、この度の能登半島地震など数年おきに、大規模な地震災害が頻発しています。

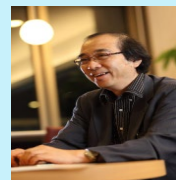
共通しているのは“想定外”と“想定以上”の災害だということです。私たちは、科学的な予見や人知に基づいた見通しの限界を謙虚に受け止めなければいけないと同時に、防災と減災の見地から、特に弱い立場にある人たちの立場に立った対策を考えていかなければいけません。

被災地にあって、障害を持つ人たちの働く場と地場の水産加工品の販路拡大を目的に設立されたシャロームは、このテーマを、身近な生活課題を自らの研究課題として捉え、共に研究を行う市民活動として広がりつつある当事者研究の発想から考えるチャリティーオンラインイベントを企画いたしました。

特に急な企画にも関わらず、出演を承諾いただきました「共生地域創造財団理事長の奥田知志さんと支援技術開発機構（ATDO）副理事長の河村宏さんには、感謝申し上げます。

なお、この度の企画に参加いただいた皆さんから寄せていただいた参加費は、経費を除いて3.11の被災地である石巻の活動と能登の救援活動に用いたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願いします。

司会 向谷地生良さん 一般社団法人シャロームいしのまき理事長
プロフィール ソーシャルワーカー、浦河べてるの家理事長。震災を契機にべてるとシャロームの交流がはじまり、2023年4月より理事長



講師・奥田 知志さん 共生地域創造財団理事長
プロフィール 東八幡キリスト教会（北九州市）の牧師。NPO法人「抱樸（ほうぼく）」の理事長を務め、ホームレスの人々の生活支援と共に、被災地支援を続ける。



・河 村 宏さん 支援技術開発機構副理事長
プロフィール 防災・減災に関する国際共同研究を始め、浦河べてるの家をはじめとする北海道浦河町と進めてきたわかりやすいマルチメディア防災マニュアルの開発とその国際的普及を行っている。



と き 2024年3月10日 午後6時30分－午後8時30分
参加方法 オンラインによる参加（QRコードから申し込みください）
参加費 2,000円（いただいた参加費は、石巻と能登の支援活動に用いられます）
主 催 一般社団法人シャロームいしのまき
〒986-2103 宮城県石巻市流留二番団61-21
電話番号：0225-24-9147
協 力 社会福祉法人浦河べてるの家

